

米国 深まる生産調整(09年1月鉱工業生産)

発表日：2009年2月19日（木）

～自動車生産台数は過去最大の落ち込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

03-5221-5001

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

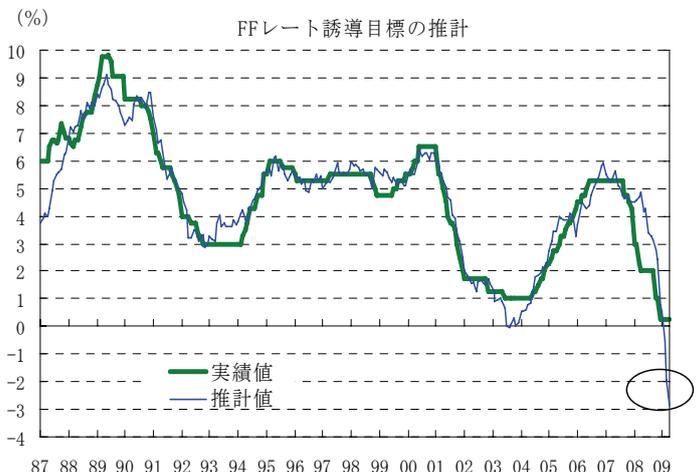
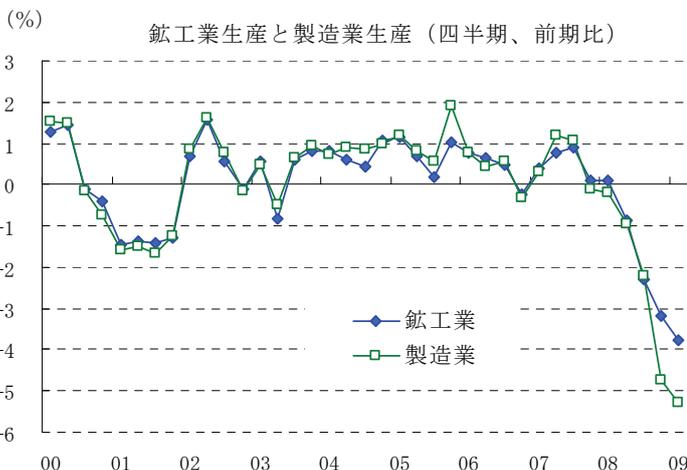
	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	製造業 (NAICS)	生産能力
	▲	(▲)	▲	+	+	▲	▲	▲	+	+	
08/04	▲0.5	(+0.4)	▲0.8	+0.1	+1.5	+1.9	▲1.1	▲6.2	+79.9	+77.7	+0.1
08/05	▲0.2	(+0.2)	+0.0	+0.2	▲2.2	+0.1	▲0.1	+0.4	+79.6	+77.6	+0.1
08/06	+0.1	(▲0.1)	▲0.2	+0.1	+1.9	▲0.1	+0.0	+4.1	+79.6	+77.4	+0.1
08/07	▲0.0	(▲0.7)	▲0.1	+1.5	▲1.0	+0.4	▲0.3	+2.3	+79.4	+77.2	+0.1
08/08	▲1.3	(▲2.0)	▲1.1	▲0.5	▲4.6	▲0.8	▲1.0	▲10.8	+78.3	+76.3	+0.1
08/09	▲4.1	(▲6.2)	▲3.9	▲9.8	+1.6	▲1.2	▲3.5	+1.0	+75.0	+73.2	+0.1
08/10	+1.6	(▲4.3)	+0.7	+7.9	+1.8	▲2.9	▲0.2	▲4.1	+76.1	+73.6	+0.1
08/11	▲1.2	(▲5.9)	▲2.3	+2.5	+2.0	▲6.1	▲2.0	▲2.2	+75.2	+71.8	+0.1
08/12	▲2.4	(▲8.2)	▲3.0	▲1.0	▲0.2	▲6.2	▲3.0	▲8.1	+73.3	+69.6	+0.1
09/01	▲1.8	(▲10.0)	▲2.6	▲1.3	+2.7	▲3.2	▲2.7	▲23.4	+72.0	+67.9	▲0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

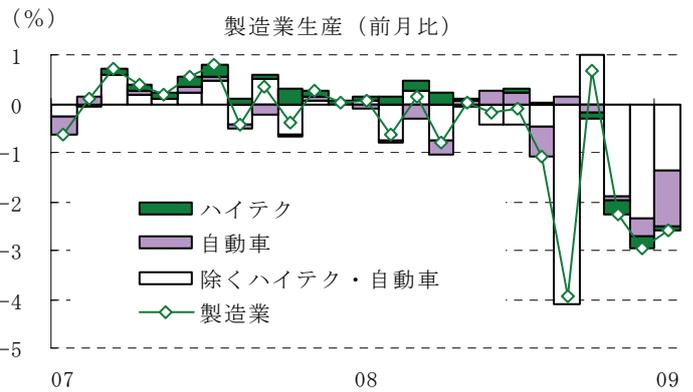
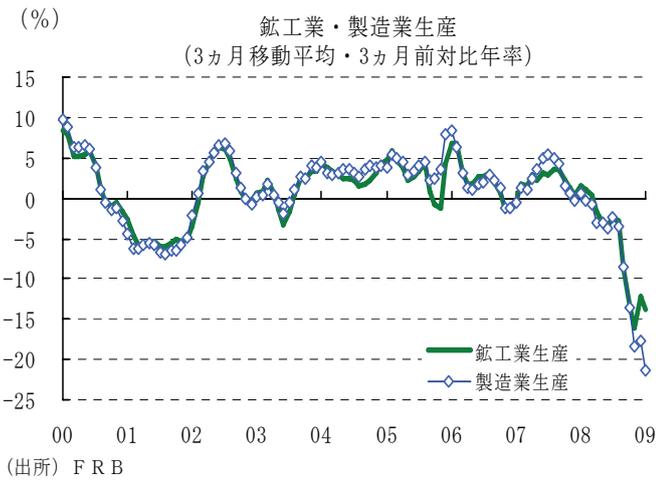
1月の鉱工業生産は前月比▲1.8%と大幅な減少を続けた（市場予想同▲1.5%）。公益が増加に転じたものの、鉱業、製造業が減少した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では▲13.8%（前月▲12.1%）と悪化度合いが強まっている。四半期でも、1月は2008年10～12月期対比▲3.8%（08年10～12月期前期比▲3.2%）とマイナス幅を拡大している。グローバル・リセッションの影響を受け、生産の減少幅は拡大、特に裾野の広い自動車需要の落ち込みは世界的な事象となっており、経済活動をかなり抑制している。

生産能力が前月比▲0.1%と2003年8月以来初めて縮小したが、生産の減少幅が大きく、稼働率は72.0%（12月73.3%）と前月から低下し1983年2月の71.5%以来の低水準となった。米国では稼働率の低下、失業率の上昇などによって需給ギャップは拡大しており、FFレート誘導目標の適正な水準は約▲3.0%と徐々にマイナス幅を拡大、目先FRBによる信用緩和策の強化が必要な状況を示している。

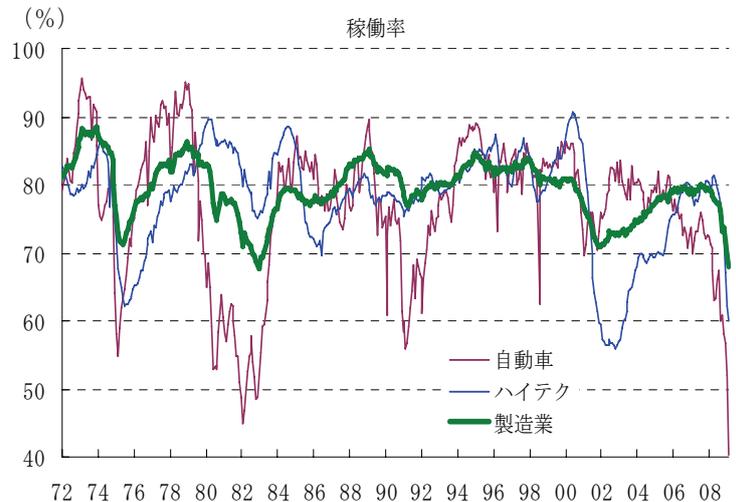


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

1月の製造業生産は自動車の落ち込みにより前月比▲2.6%と大幅な減少となった。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では▲21.4%（前月▲17.7%）と生産の悪化ペースはさらに加速している。生産の縮小した業種数は19業種中17業種（前月18業種）と幅広い業種で生産調整が行われている。拡大した業種は他の業種よりも景気変動の影響を受け難い食品などにとどまった。一方、自動車部門は全体で前月比▲23.4%と急減し、製造業生産を同▲1.2%ポイント押し下げた。自動車部品が同▲13.6%の減少にとどまった一方、ビッグスリーなど完成車が同▲40.0%と調整幅が大きくなっている。1月の自動車生産を台数で見ると、年率換算390万台（12月同661万台）と前月比▲41%の急減となり、同項目の集計が開始された1967年以降で最低水準を記録した。また、ハイテク部門は通信機器が前月比+1.5%と増加したものの、半導体が前月比▲7.1%、コンピューターが同▲3.6%と下落したためハイテク生産全体でも同▲3.2%（前月同▲6.2%）と減少を続けている。



製造業では、出荷の急減による在庫率の急上昇で、生産調整は深刻化している。このため、製造業稼働率は、1月に67.9%と82年12月の67.8%以来の低水準に落ち込んでいる。今後予想される生産削減によって過去最低水準を更新するのはほぼ確実な情勢だ。景気対策で企業向け減税が実施されても、設備投資が2009年に回復することはかなり困難とみられ、今後資本財生産・輸入の減少幅拡大は避けられず、内外の生産活動を抑制させる公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

今後の生産活動に関しては、製造業生産のピーク、ボトムに3～6ヵ月先行する傾向がある「在庫出荷バランス（在庫-出荷）」が2008年12月まで上昇を続けたことから、2009年前半の米国製造業生産は前年比でマイナス幅を拡大することが示唆されている。実際、世界経済は深刻なリセッションに陥っており、2009年前半が最も暗い局面になるとみられることから、この需要の落ち込みにあわせる形で生産調整は強化されると予想される。

主要産業別にみると、自動車部門では米国内の販売が極度の不振に陥っており、米政府による支援を受けても一段の生産調整は避けられない状況。また、世界的なハイテク循環に先行するといわれる台湾電子部品産業の出荷在庫バランスをみると、2009年前半もハイテク部門の調整が続くことが示唆されている。米ハイテク生産は同バランスに数ヶ月程度遅れて動く傾向があるため、2009年前半にマイナス幅を拡大する可能性が高い。さらに、航空機産業でも、納入先送りや購入予約のキャンセルの増加から、生産の減少が続こう。

以上のことを勘案すると、米国生産活動は、2009年前半に悪化度合いを強め、年後半に悪化度合いを弱める公算が大きい。

(%) 製造業部門の在庫調整圧力（在庫-出荷）と生産の推移
(3ヵ月移動平均、前年同月比)



(%) 台湾電子部品の出荷在庫バランスと米ハイテク生産の推移 (%)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。